

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100034		
法人名	東洋ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホーム燦 むつみ(Aユニット)		
所在地	岡崎市赤浜町寺前19番地1		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392100034-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、家庭的な雰囲気の中で安心して生活をいただけるよう、本人様の健康・安全に配慮しつつ、ご希望・ペースを尊重した介護を行っています。入居時に本人様・ご家族様からできるだけ多くの情報をいただき、入居後のご要望について伺います。入居後も、ご家族様への報告・ご相談等でコミュニケーションを多く取るようにし、ご家族様にも、常に、入居者様の現状とそれに対するホームの対応を把握していただくことで、安心していただけるように努めています。また、地域密着型施設として、地域に根差した施設でありますように、町内の活動・地域行事への参加を積極的に行い、地域の方々とのつながりを深めています。最近では、地域の方々への介護に関する説明会等を行うなどして地域参加だけでなく、地域貢献もできるようになってきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設11年目を迎える、郊外型の静かな環境下にあるホームである。管理者の交代があり、着任した新管理者は、前任者の掲げた平成30年度スローガン「和顔・愛語多くの感動を生みだそう」を指針に置いて運営に当たっている。前任者が掲げた目標達成計画「地域交流の活性化」については、地域行事・学校行事への参加が充実した。さらに地区の秋祭りに於ける「子供神輿」の立寄り・休憩場所としてホーム敷地の利用が叶い、菓子・飲物の提供を申し出て地域交流の活性化にも貢献することとなった。年度の途中(7月)で、ホーム内外に防犯カメラ(定点カメラ)を設置した。運営推進会議においても地区代表に示しており、地域防犯への一助として活用が期待されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に、理念を掲示している。また、スタッフ一同共有しています。	年度スローガンを掲げ、運営指針として取り組んでいる。30年度は「和顔愛語多くの感動を・・・」を指針としているが、次年度は新管理者の下に、わかり易く具体的なスローガンの作成を目論んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動は総代の方から情報提供して頂き、町内の運動会・敬老会にも参加させて頂きます。その他地域包括支援センターの職員の方にご協力頂いております。	地域交流の活性化を目標に掲げて取り組み、地域行事と学校行事への参加はほぼ達成した。ホームを子供神輿の休憩場所に、さらに飲物・お菓子の提供を申し出ており、地域の一員としての存在感を増している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で介護や制度についてご相談をお受けしたり、介護や認知症に関する情報提供を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状報告・地域参加状況・普段の取り組みの報告を兼ねご意見をいただきながら、運営を行っています。	行政、地区代表、民生委員、利用者家族を招いて奇数月に開催しており、ホームの状況・行事計画の発表を主な議題としている。防犯カメラの設置に伴い、地域に貢献できる体制が整いつつある旨を披露した。	目標達成計画を公表し、以降の会議において進捗状況を報告し、会議メンバーによる検討・討議を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、地域総代・地域包括支援センターの方々に出席いただき、ホームの現状に基づき、ご意見や情報を頂いています。	運営推進会議には、毎回市の担当者が出席しており、状況は伝わっている。現在、介護相談員を運営推進会議メンバーに取り込むべく打診中である。認知症ケアの講師依頼には、積極的に対応する考えである。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、入居者様の権利を尊重した対応を行っている。各居室の扉には、センサーが設置されており、夜間はそれにより転倒予防の1つの対策としている。さらに、転倒のリスクが高い入居者様には、離床センサーを設置している。社内研修を行い周知徹底しています。	身体拘束禁止委員会を3ヶ月に1度開催し、テーマを設けて協議し意識を高めている。玄関扉、ユニット間の仕切りにも施錠はなく、開放的なホームである。随所にセンサーを設置して事故の未然防止を図っており、防犯(定点)カメラによる監視も機能している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内合同で、「虐待、身体拘束、権利擁護」の研修を行い、出席できなかったスタッフ向けに、事業所内でのその内容の研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年8月、来年3月にも社内にて研修会を行います。その内容をホーム内会議にて周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、特に金銭に関わる項目・解約に関わる項目・サービス内容に関わる項目について、長く時間を取り、説明を行っている。また、分かりにくいと思われる部分については、ご入居後もその都度説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご意見を伺うだけではなく、普段から個別にコミュニケーションを取るようになっている。その中で、意見・要望を言いやすい関係を築けるように心がけています。	家族訪問時の機会を捉えて意見・要望・苦情などを聞いている。毎秋、会食・親睦を兼ねた家族会を開催し、毎回多数の参加者がある。意見等を聞く機会ともなっており、意見を参考にして居室環境の変更を実施した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフミーティング等の会議や個別面接にてスタッフの意見・提案を聞くようにしている。また、意見・提案がしやすい雰囲気を作るようにしています。	日常派生する意見や要望は、介護主任・管理者が適宜処理している。人事・処遇等経営側への要望は社内メールで一報し、必要に応じて稟議書にて上申している。現管理者による人員配置の要望が実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の能力・実績等の状況を把握し、事業所全体としてのバランスを考慮しながら、個々がモチベーションを高く持って働くことができるよう、職場環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所単位ではなく、社内全体で研修を行っています。その内容を各事業所の各スタッフに周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム小部会、県のグループホーム協議会に入会し、情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に、可能な限り多くの情報をいただき、ご本人の不安・ご要望をできるだけ明確にイメージできるようにしています。常に、謙虚な姿勢で接し、安心してお話いただける雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、安心してお話いただける雰囲気作りに努め、ご家族の視点から見たご本人の現状をより深く理解できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のこれまでの生活歴やお話をされる様子を伺いながら、ご希望の本質を見極めるようにしています。訪問マッサージ、訪問理容等ホームで利用できる外部サービスについても説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の業務においても、入居者様の立場に立って、考え行動し、受容と共感の姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、ご家族に電話もしくは面会時の状況報告・相談をしています。それにより、ご家族とホームが同じ方向を向いてケアができるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームは常に開放し、ご家族の了承があれば、外出も自由に行えるようにしています。また、来設いただいた方々を、温かい雰囲気ですて迎えることで、また来たいと思っていただけるよう努めています。	家族をはじめ、利用者の友人・知人の来訪を、温かい雰囲気を持って迎えている。職員は、呈茶等の配慮をし、再度の来訪を願っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の個性を把握し、食事時の座席の配置、リビングでの座席の配置等を考慮し良い関係が築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の方々についても、必要に応じて支援を行っている。例:入院されている方のお見舞い、写真提供、葬儀の参列など		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時の情報や日々接する中で、各担当者を中心として、ご本人の思いを把握し、毎月1回のカンファレンスで話し合いを行っています。	生活歴・近況・性格を把握して接しており、日頃の様子を注意深く観察し、職員ミーティングで意向を確認している。ミーティングの職員間の会話で、多くの情報(利用者の思いや意向)が共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面接とご入居時にご家族に情報シートを記入して頂き、ご本人には会話を通じて情報収集することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、食事量・水分摂取量・排泄状況等を始めとして、入居者様の心身における現状把握は常に行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、管理者、計画作成担当者、担当スタッフ、主任、看護師の意見を踏まえて、ご本人・ご家族にとって、満足のできる介護計画になるように努めています。	ホーム独自の介護計画書を作成し、身体機能の維持向上を目標とした計画を立てている。1ヶ月ごとにモニタリングを行い、概ね6ヶ月で見直しを行っている。介護計画更新時の担当者会議への家族参加は見られない。	計画に掲げた支援項目が多く、実行・評価に時間がかかっている。利用者個々の思いを集約し、反映できるような支援内容が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・介護日誌に日々記録をし、職員間で情報共有を行っています。特に必要な事柄については、連絡ノートで共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険更新の認定調査日は、立ち会われるご家族様のご都合に合わせています。受診については、ご家族様のご都合がつかない場合や急を要する場合は、ホームにて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会・敬老会等に、参加させていただき、小学校・中学校とも交流をさせて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科受診1回/月、近隣の医師にお願いいたします。状況に応じて柔軟な対応をして下さり助かっています。	協力医、主治医への受診は家族対応を原則としているが、受診時には情報提供書を用意し、受診効率を上げている。家族対応が不可能な場合には、看護師が同行するなど臨機応変に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、ミーティングには必ず出席し、介護職と情報共有をし医療的な立場での見解を示しています。また、業務日誌・介護記録にて、全スタッフに情報が伝わるようにし、医療機関の受診をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、1週間に1度、面会に伺い、病院看護師より現状を聞いている。ご家族とも定期的に連絡を取り、Dr. からの情報を早めに得るようにしている。退院の目途がきたら、医療相談員と相談するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	情報提供・相談は随時行っています。	入居時、重度化した場合の説明を行っているが、原則的には看取りは行わない方針で臨んでいる。今後、職員の知識不足や不安を取り除く体制を整えていきたい考えを持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内合同の研修会にて、新しい情報があれば、随時、全体ミーティングにて情報を周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。災害時の地域の方々に協力を得られるようお願いをしている。地域の防災マップに基づいた防災訓練に参加しています。	毎年2、8月に火災発生を想定した避難訓練を実施し、避難経路や手順等を確認している。消防署の参加は要請していない。概ね3日間の非常食備蓄を行っており、地域へも公表して貢献する意向を示している。	水害発生を想定した避難訓練、消防署員の参加により助言を求めるための訓練も望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「馴染みの関係」「家族的な雰囲気」の名の下に、人生の大先輩であり、お客様である入居者様の自尊心が、日々の生活の中で傷つけられることのないように、配慮しながら対応しています。	入浴時や排泄時など、羞恥心や自尊心に触れる場面では、出来るだけさりげない介助や声掛けを心掛けている。申し送り時にも周りに声が漏れないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望や困り事がないか個別に伺っています。日々の生活の中で、入居者様ご本人に選択していただく機会をできる限り多く提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のご希望に合わせた生活をできる限り送っていただくようにしています。強制はしないことを原則としています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から、衣類等の選択を楽しめるように支援しています。月に1回の出張理容を利用いただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、スタッフと一緒に召し上がっていただいています。数名の入居者様に、食器洗い、拭くお手伝いなどしていただいています。	利用者と相談して作成した献立に基づいて食材を発注している。高齢化により、下準備や食器拭きなどに参加できる利用者が減少している。月に1回程度外食に出かけたり、おやつ作りを実施して潤いを持たせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医と相談しながら、入居者様1人1人の1日あたりの食事摂取量・水分量、食事形態を決定し、摂取量を記録し、栄養状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を使用している方は、外して磨いていただくよう支援しています。自歯の方は、磨き残しのないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを理解し、できる限りトイレで排泄をしていただくよう支援しています。	入居時に、尿意の有無を確認して臨んでいる。記録を克明にとり、個々の排泄リズムを把握し、早めの誘導でトイレ排泄の継続に繋げている。パッドが小型化できたり、オムツから布パンツに改善できたケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂って頂くように支援しています。食事では、繊維の多いものを摂って頂くようにし、ヨーグルトを召し上がって頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3日の入浴となっています。入浴時間は限定されるが、その中で入居者様のご希望にできるだけ添えるように努めています。	週2～3回、昼過ぎの入浴を目安としている。医師の指示により、毎日入浴が必要な場合には柔軟に対応している。檜製の浴槽で、個浴であるためのんびりと入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則自由に居室で休んで頂いています。また、夜間の睡眠時間を十分に確保できるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にお薬手帳と薬情があり、常に確認ができる用にしています。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用頂けるようにしています。症状の変化を常に観察し、記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、できる限りの家事のお手伝いをして頂いています。また、ボランティアの方に来て頂き、楽しい時間を過ごして頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り個別の希望や好み合わせて外出先を決めています。	職員不足の現状があり、日常の近隣散歩さえ充分に行なえていないが、職員からは外出支援を充実させたいとの思いは強く感じられる。年間行事に掲げていた外出(苺狩り・紅葉狩り・初詣)は実行することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かりして外出した際や、買い物に行かれた時に使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から、ご家族に電話をかけたいというご希望があった場合は、ホームの電話機で電話をかけていただいています。手紙についてもご希望があれば対応をいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、気持ちや和むような雰囲気づくりを心がけています。季節の花、雛人形、かぶと飾り、七夕飾り等季節を感じられるものを飾っています。	木造平屋建てのホームであり、内装にも木材を多く使い、木の感触を味わえる配慮がされている。季節感を感じられる飾り付け、利用者の作品、行事の写真などが掲示され、利用者に安らぎを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係に配慮した居場所作りに心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、ご家族が備品を持って来られる際に、ご本人が安心感を抱けるものもあわせて持ってきていただくようお願いしています。	整理ダンスとベッドが備え付けのロジ風の居室には、持込み家具が設置され、家族・行事写真が掲示されている。畳を敷いた部屋、手摺・離床センサーが設置された部屋など、希望・状態によって配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわかるように目印になるもので工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392100034		
法人名	東洋ウェルフェア株式会社		
事業所名	グループホーム燦 むつみ(Bユニット)		
所在地	岡崎市赤浜町寺前19番地1		
自己評価作成日	平成30年12月25日	評価結果市町村受理日	平成31年 3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2392100034-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成31年 1月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が、家庭的な雰囲気の中で安心して生活をしていただけるよう、本人様の健康・安全に配慮しつつ、ご希望・ペースを尊重した介護を行っています。入居時に本人様・ご家族様からできるだけ多くの情報をいただき、入居後のご要望について伺います。入居後も、ご家族様への報告・ご相談等でコミュニケーションを多く取るようにし、ご家族様にも、常に、入居者様の現状とそれに対するホームの対応を把握していただくことで、安心していただけるように努めています。また、地域密着型施設として、地域に根差した施設でありますように、町内の活動・地域行事への参加を積極的に行い、地域の方々とのつながりを深めています。最近では、地域の方々への介護に関する説明会等を行うなどして地域参加だけでなく、地域貢献もできるようになってきました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に、理念を掲示している。また、スタッフ一同共有しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域活動は総代の方から情報提供して頂き、町内の運動会・敬老会にも参加させていただきます。又中学生の職場体験の受け入れも行っています。その他地域包括支援センターの職員の方にご協力頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で介護や制度についてご相談を受けたり、介護や認知症に関する情報提供を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状報告・地域参加状況・普段の取り組みの報告を兼ねご意見をいただきながら、運営を行っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、岡崎市介護相談員・地域包括支援センターの方々に出席いただき、ホームの現状に基づき、ご意見や情報を頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は行わず、入居者様の権利を尊重した対応を行っている。各居室の扉には、センサーが設置されており、夜間はそれにより転倒予防の1つの対策としている。さらに、転倒のリスクが高い入居者様には、離床センサーを設置している。ホーム内研修を行い周知徹底しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内合同で、「虐待、身体拘束、権利擁護」の研修を行い、出席できなかったスタッフ向けに、事業所内でその内容の研修を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年8月、来年3月にも社内にて研修会を行います。その内容をホーム内会議にて周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、特に金銭に関わる項目・解約に関わる項目・サービス内容に関わる項目について、長く時間を取り、説明を行っている。また、分かりにくいと思われる部分については、ご入居後もその都度説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご意見を伺うだけではなく、普段から個別にコミュニケーションを取るようになっている。その中で、意見・要望を言いやすい関係を築けるように心がけています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフミーティング等の会議や個別面接にてスタッフの意見・提案を聞くようになっている。また、意見・提案がしやすい雰囲気を作るようになっています。。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の能力・実績等の状況を把握し、事業所全体としてのバランスを考慮しながら、個々がモチベーションを高く持って働くことができるよう、職場環境づくりに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所単位ではなく、社内全体で研修を行っています。その内容を各事業所の各スタッフに周知しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム小部会、県のグループホーム協議会に入会し、情報交換・勉強会を行い、サービスの質の向上に役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面接時に、可能な限り多くの情報をいただき、ご本人の不安・ご要望をできるだけ明確にイメージできるようにしています。常に、謙虚な姿勢で接し、安心してお話いただける雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、安心してお話いただける雰囲気作りに努め、ご家族の視点から見たご本人の現状をより深く理解できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様のこれまでの生活歴やお話をされる様子を伺いながら、ご希望の本質を見極めるようにしています。訪問マッサージ、訪問理容等ホームで利用できる外部サービスについても説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の業務においても、入居者様の立場に立って、考え行動し、受容と共感の姿勢を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の状況について、ご家族に電話もしくは面会時の状況報告・相談をしています。それにより、ご家族とホームが同じ方向を向いてケアができるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームは常に開放し、ご家族の了承があれば、外出も自由に行えるようにしています。また、来設いただいた方々を、温かい雰囲気でお迎えすることで、また来たいと思っていただけるよう努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様1人1人の個性を把握し、食事時の座席の配置、リビングでの座席の配置等を考慮し良い関係が築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の方々についても、必要に応じて支援を行っている。例：入院されている方のお見舞い、写真提供、葬儀の参列など		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居時の情報や日々接する中で、各担当者を中心として、ご本人の思いを把握し、毎月1回のカンファレンスで話し合いを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の面接とご入居時にご家族に情報シートを記入して頂き、ご本人には会話を通じて情報収集することに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルチェック、食事量・水分摂取量・排泄状況等を始めとして、入居者様の心身における現状把握は常に行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、管理者、計画作成担当者、担当スタッフ、主任、看護師の意見を踏まえて、ご本人・ご家族にとって、満足のできる介護計画になるように努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・介護日誌に日々記録をし、職員間で情報共有を行っています。特に必要な事柄については、個別のカードックスに記載し、必要時、すぐに確認ができるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険更新の認定調査日は、立ち会われるご家族様のご都合に合わせています。受診については、ご家族様のご都合がつかない場合や急を要する場合は、ホームにて対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会・敬老会等に、参加させていただき、小学校・中学校とも交流をさせて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科受診1回/月、心療内科往診1回/月、いずれも近隣の医師にお願いしています。状況に応じて柔軟な対応をして下さり助かっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、ミーティングには必ず出席し、介護職と情報共有をし医療的な立場での見解を示しています。また、業務日誌・介護記録にて、全スタッフに情報が伝わるようにし、医療機関の受診をして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された場合、2～3日に1度、面会に伺い、病院看護師より現状を聞いている。ご家族とも定期的に連絡を取り、Dr. からの情報を早めに得るようにしている。退院の目途がつかしたら、医療相談員と相談するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	情報提供・相談は随時行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフミーティングにて、研修を行っています。社内合同の研修会にて、新しい情報があれば、随時、全体ミーティングにて情報を周知しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。地域福祉委員会の方に、災害時の地域の方々に協力を得られるようお願いをしている。地域の防災マップに基づいた防災訓練に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「馴染みの関係」「家族的な雰囲気」の名の下に、人生の大先輩であり、お客様である入居者様の自尊心が、日々の生活の中で傷つけられることのないように、配慮しながら対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のご希望や困り事がないか個別に伺っています。日々の生活の中で、入居者様ご本人に選択していただく機会をできる限り多く提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のご希望に合わせた生活をできる限り送っていただくようにしています。強制はしないことを原則としています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から、衣類等の選択を楽しめるように支援しています。月に1回の出張理容を利用していただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、スタッフと一緒に召し上がっていただいています。数名の入居者様に、食器洗い、拭くお手伝いなどいただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	かかりつけ医と相談しながら、入居者様1人1人の1日あたりの食事摂取量・水分量、食事形態を決定し。摂取量を記録し、栄養状態を把握しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入れ歯を使用している方は、外して磨いていただくよう支援しています。自歯の方は、磨き残しのないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを理解し、できる限りトイレで排泄をしていただくよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を十分に摂って頂くように支援しています。食事では、繊維の多いものを摂って頂くようにし、ヨーグルトを召し上がって頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3日の入浴となっています。入浴時間は限定されるが、その中で入居者様のご希望にできるだけ添えるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	原則自由に居室で休んで頂いています。また、夜間の睡眠時間を十分に確保できるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にお薬手帳と薬情があり、常に確認ができる用にしています。服薬時はスタッフ2名で確認し、確実に服用頂けるようにしています。症状の変化を常に観察し、記録に残しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、できる限りの家事のお手伝いをして頂いています。また、ボランティアの方に来て頂き、楽しい時間を過ごして頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できる限り個別の希望や好み合わせて外出先を決めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお預かりして外出した際や、買い物に行かれた時に使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様から、ご家族に電話をかけたいというご希望があった場合は、ホームの電話機で電話をかけていただいています。手紙についてもご希望があれば対応をいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、気持ちが和むような雰囲気づくりを心がけています。季節の花、雛人形、かぶと飾り、七夕飾り等季節を感じられるのを飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の関係に配慮した居場所作りに心がけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時、ご家族が備品を持って来られる際に、ご本人が安心感を抱けるものもあわせて持ってきていただくようお願いしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身の居室がわかるように目印になるもので工夫しています。		